

## 北極圏シベリア皆既日食観測計画(No2)

森 友 和

前号でお知らせした「北極圏シベリア日食観測計画」の後に、新たにソ連からも情報が入ってきて、北極圏シベリアで日食観測が出来ることとなりましたので続報としてお知らせいたします。なお、観測地の気象条件に関しては前号を御覧下さい。

### ◎ソ連側のチェルスキー（観測地）への受人準備

この事についてソ連国家旅行委員会ハバロフスク支店長V. A. コノワロフ氏から次のような連絡が入りました。

『ソ連国家旅行委員会ハバロフスク支店では、この旅行を組織するために全ソ連アカデミー・ヤクーツク支部からヤクーツクの宇宙天文研究所の代表の立場で、この問題に対してできるだけの援助を惜しまないとの約束を受けています。また、イルクーツクの太陽研究所からもこの旅行を組織するために直接参加し、皆既日食観測に援助をすることを約束してきています。現在、太陽研究所ではチェルスキーのニジネコリムスク周辺で、1990年7月22日の皆既日食観測の保証できる場所を正確に精査しています。最終的な皆既日食の観測地の選定は1990年2月までに決め、その後最低限の施設を備えた野営場所を作ります。それと同時に、私達は、他の外国の研究者とアマチュアからの参加の要請を受け取っています。皆既日食観測を成功させるために私達が出来ることすべてを致します。あなたがたの参加に対しお礼申し上げます。』

またその後、テレックスで入った情報では、アメリカ、西ドイツ、そしてレニングラード大学など数百名の日食観測隊がチェルスキー人を予定しているそうです。

なお、ハバロフスク支店の営業部長が11月にチェルスキーに入り、チェルスキー郊外3Kmのところも観測候補地としてあげてきています。

### ◎観測地の位置および概要

観測地はチェルスキー(161°20'E 68°45'N)から3Km近く離れた郊外の地、又はその近郊の町ニジネコリムスク(160°47'E 68°32'N)の郊外をソ連側は考えています。チェルスキーはコリマ川が北極海に注ぐ河口に近い町です。人口は1万人位の町で8割をロシア系が占めています。チェルスキーの町の状況は『NHKスペシャル北極圏』の取材班が現地入りしていますので、今後そちらからも情報を得るつもりです。

チェルスキーの町は視正午中心食(+142° 10' +73° 27')と地球全体としての食の最大(+168° 41' +65° 07')の両地点の間に位置し、日食は食分1.02、皆既継続時間2.5分、太陽の高度は40度あります。さらにこの地はオーロラ帯に近く、明るいオーロラが運良く出ると、コロナと同時に見ることが出来るかどうか、大いに興味を注がれるところです。

ところでこの時期は北極圏の短い夏に当たり、観測地に滞在中は「蚊の大群」の猛威に晒されることを覚悟しておかなければなりません。この地方は、ソ連の観光地ではありませんから、ホテルなどの観光客用の宿泊施設はありません。現在の予定では、日本からテントを持ち込み、各参加者は寝袋を持参していくことになっています。食べ物は「インツーリスト」が用意しますが、おいしい食事は期待できないでしょう。

◎旅行計画

旅行は東急観光上野支店が主催し、コスモ・トラベルが企画する旅行となっておりますが、観測の計画については、「北極圏シベリア日食観測会議」を今回の日食観測に関して仲間数名で組織して旅行会社と話し合いをしています。

旅行については旅行会社は次のようにA・Bコースを見積っています。

Aコース 7月17日から24日 8日間 35万5千円(予定)

Bコース 7月20日から24日 5日間 31万円(予定)

両コースとも新潟から出発します。Aコースはバイカル湖観光およびイルクーツク・ヤクーツクの天文施設の見学を含んでいます。しかし、チェルスキーに日食前日にはいるためチャーター便を飛ばしますので、その機種・飛行コースなどに変更があれば若干見積に変更があるそうです。

日食に合わせた旅行スケジュール、テント寝袋による生活など快適な旅行とはほど遠い日食観測旅行ですが、関心のある方は次のところに問い合わせてください。

旅行について コスモ・トラベル 〒\*\*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\*  
 観測について 森 友和 〒\*\*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*\* \*



